

『吉原』を知り、 人権を知る

— 『従軍慰安婦問題』の前史 —

完成版

美濃部 遼太郎
Minobe Ryotaro

青山ライフ出版

序

かつて冷戦時代にはマルクス主義との関連で、民主主義における平等が論じられることは殆どなかった。マルクス主義は生産手段の私有の禁止を第一義としていたが、確かに人民の経済的平等——量的平等——をも目標に掲げていたからである。そこで自由の民主主義と平等のマルクス主義と云う様に、自由と平等は二者択一的に考えられていた。

しかしこれは勿論正しくない。マルクス主義者は何も自由を軽んじていた訳ではない。

最初に自由で失敗したのである。そして続いて経済的にも失敗して、量的平等をも実現できなかったのである。(「貧困の平等」と云う形で平等には成功した、と皮肉る人もいるが。)

そして実は民主主義も平等を説いていたのである。しかしそれはマルクス主義の説くような量的平等ではなく質的平等なのである。観念的であるのかも知れない。しかし最早他に平等の求めようのなくなった今こそ、民主主義社会における平等を論じるべき時であると考える。ここでは通常されるように自由ではなく、平等に重点を置いて民主主義を論じよう。

そのことが返って民主主義社会における自由を浮き彫りにすると信じて。

『吉原』を知り、人権を知る 目次

序	3
1、人権の先祖は法律？	6
2、イギリス革命と自然権の理論	13
3、アメリカ独立革命とフランス革命	19
4、マイナス効果を捜す！	29
5、恥を忘れることによつて、恥を雪ぐことはできない！	38
6、わが国民は利益至上主義者か？	42
7、『従軍慰安婦問題』について	50
8、二人のトマス	57
9、過剰権利の主張はいかにして起きたか？	73
10、平等の原理としての自然法	90

『吉原』を知り、人権を知る

— 『従軍慰安婦問題』の前史 —

完成版

この作品は、『『吉原』を知り、人権を知る — 従軍慰安婦問題の前史 —』（無料版）に加筆、修正した完成版である。

1、人権の先祖は法律？

戦後になって『権利』と言う言葉は大変厄介なものになった。しかし明治時代から既に『権利』と言う言葉は存在していた。それ所か江戸時代にさへ、慣習的には『権利』に当たる概念はあった。中には今日では到底考えられない程絶大なものもあり、それは今では権力と呼ばれているが。

結局の所『人権』にあたる概念が、我が国には全くなかったのである。この『人権』と言う言葉こそが戦後日本に永続的な混乱を起した元凶であり、今日尚収束を見ていないのである。

それでは『人権』とは何なのか？ 『人権』はフランス革命の頃は自然権と呼ばれていたが、遠くは中世の自然法に淵源を發する。

『人類は二つの法によって規律されている。すなわち、自然法と慣習。自然法とは聖書及び福音書のなかに含まれるものである。』（教会法全典）

『マルコによる福音書』を引用しよう。『彼らの議論を聞いていた一人の律法学者が進み出、イエスが立派にお答えになったのを見て、尋ねた。『あらゆる掟のうちで、どれが第一でしょうか。』イエスはお答えになった。『第一の掟は、これである。『イスラエルよ、聞け、わたしたちの神である主は、唯一の主である。心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を

愛しなさい。』第二の掟は、これである。『隣人を自分のように愛しなさい。』この二つにまさる掟はほかにない。』（12、28—34、以下聖書の翻訳は総て新共同訳）これが所謂ブルトマン（プロテスタントの神学者）の言う二重命令である。

（尚江戸時代に宣教師シドッチを尋問した新井白石が、これをモーセの十戒に先立つ二戒であると喝破したのは著名な史実である。）この二つの掟は何れも旧約聖書から取られているが、ここでは別々の文脈で現われている。（第一の掟は『申命記』六章一節、第二の掟は『レビ記』十九章十八節）この二つを結合したところにイエスの独自性がある。イエスが言う意味は明らかであると思う。『あなたは、主なるあなたの神を愛するように（あなたと同様に）神によつて造られた、あなたの隣人を愛さなくてはならない、の意味である。（ついでに言えばキリスト教では自殺することも禁じられている。自らの生命も神の被造物であるから自分の物であつて、自分の物ではないと説かれているのである。）パウロは『第二の掟』を注釈するかにように記している。『互いに愛し合うことのほかは、だれに對しても借りがあつてはなりません。人を愛する者は、律法を全うしているのです。『姦淫するな、殺すな、盗むな、むさぼるな』、そのほかどんな掟があつても、『隣人を自分のように愛しなさい』という言葉に要約されます。愛は隣人に悪を行いません。だから、愛は律法を全うするのです。』（ローマの信徒への手紙13、8—10）

続いて『ルカによる福音書』を引用しよう。『しかし彼は自分を正当化しようとして、『では、私の隣人とは誰ですか』と言つた。イエスはお答えになつた。『ある人がエルサレムからエリコへ下つて